

野尻哲史と考える！ 殖やした後の減らし方 第4回 退職後の資産運用のポイント

2026年4月24日

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

資産形成期と資産活用期の運用

資産形成

長期

30~40年を目途に運用を継続し収益率の収斂を狙う

分散

資産の分散を十分に行うことで、収益率の安定化を図る

積立

定額投資を継続することでコストの平準化を図る

資産活用

長期

徐々に投資期間が短くなり、現役時代ほどメリットがない

分散

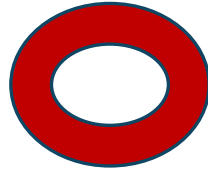
資産の分散を十分に行うことで、収益率の安定化を図る

積立

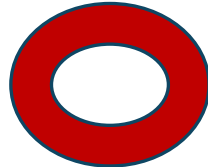
退職後には給与からの積立投資を卒業

資産形成

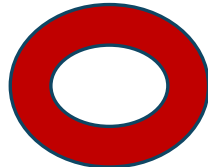
長期



分散



積立

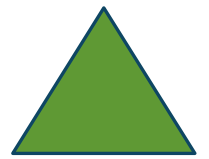


ハイリスク・
ハイリターン

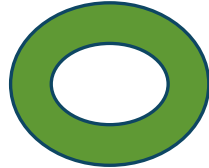
スイッチング

資産活用

長期



分散

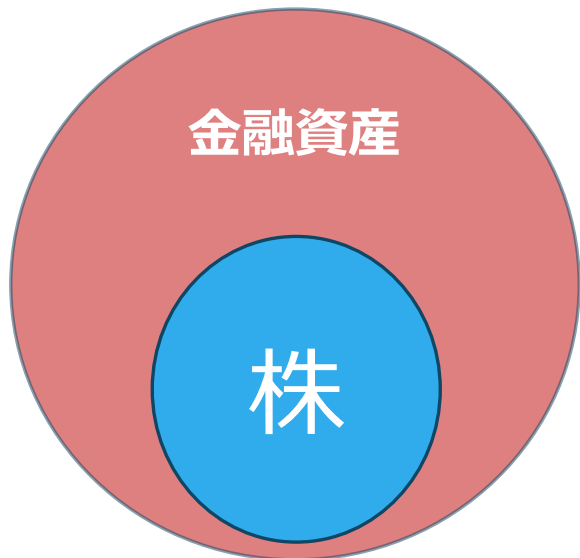


積立

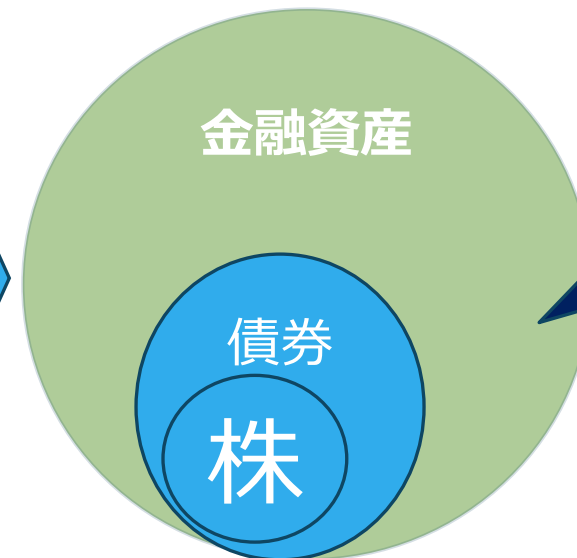


ローリスク・
ローリターン

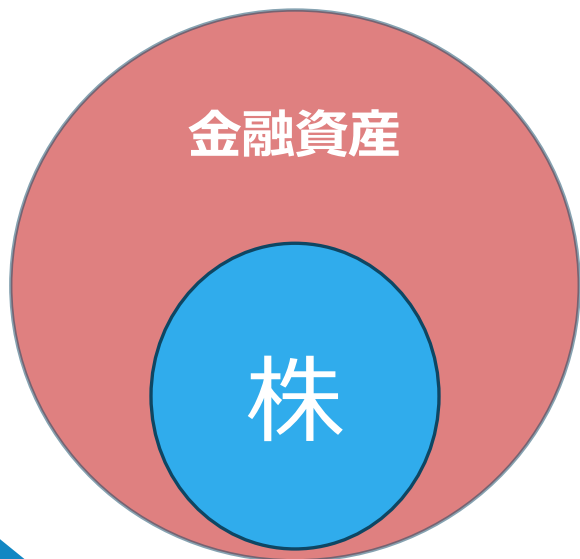
リスクを下げる2つの方法



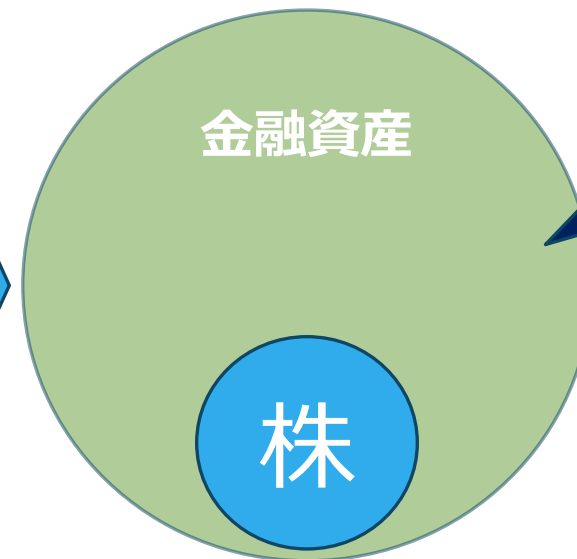
有価証券の
リスクを下げる



ポートフォ
リオの大
きい資産



有価証券の
比率を下げる



取り崩し
の順序を
考える

重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所